

**CONTENTS**

- 活動報告・各種会議議事録
- 会員異動
- 学会関連カレンダー
- 学会主催会議等の詳細
- 日本農薬学会第41回大会の御案内
- 技術士試験対策セミナーの御案内
- 農業科学研究奨励金の交付申請について

平成27年度第2回常任評議員会議事録

日 時：平成27年8月1日（土）13:00～17:00

場 所：日本植物防疫協会 地下会議室

出席者：会長，副会長，常任評議員，第41回大会委員長
計15名（欠席1名）

議 事：

I. 平成27年度第1回常任評議員会議事録について確認した。

II. 経過報告および議事

1. 財務関係

- ・平成27年度収支の現状（1月1日から7月21日）について報告があった。

2. 編集委員会

- ・JPS第40巻3号と和雑誌2号の発行予定について報告があった。
- ・平成27年度の投稿審査状況について報告があった。
- ・論文賞候補論文の選考について報告があった。
- ・BioMed Central/Springerのオープンアクセスについて説明がなされた。
- ・国立情報学研究所電子図書館からJ-STAGEへの移行について報告された。
- ・和雑誌第41巻の読み物企画について説明があった。

3. 環境委員会

- ・平成27年度の活動状況について説明があった。
- ・平成27年度の残留農薬分析セミナー開催予定について説明があった。
- ・Q & A集の英文化について検討された。

- ・農薬の理解促進WGが6月14日に開催された。
- ・講師派遣に関する広報文書を送付した。

4. 将来計画委員会

- ・活動状況について説明があった。

5. ホームページ委員会

- ・平成27年度の活動状況について説明があった。

6. 学会賞受賞者選考委員会

- ・平成28年度の日本農薬学会賞の候補者の推薦および選考状況について報告があった。

7. 技術士育成推進委員会

- ・技術士試験対策セミナーを第41回大会で行う予定とした。

8. 昆虫科学連合

- ・8月1日にシンポジウムが開催された。

9. 植物保護科学連合

- ・平成27年度の日本学術会議シンポジウム（11月14日開催予定）では、当学会からの推薦で葉山佳代氏（小笠原環境科学研究所）が講演する。

10. 農学会関連

- ・10月12日に農学分野技術者教育関係のシンポジウムが開催される。

11. 国際学会の渡航費補助について

- ・ボストン開催の250th ACS会議と、イギリス開催の18th WCISTへの参加に各1名ずつの申請があり、それぞれ補助することを決定した。

12. 40周年記念事業について

- ・40周年記念事業の収支経過について報告があった。
- ・学会出版物のアーカイブ化については、小集会講演要旨も含めJ-STAGE利用を検討する。
- ・名誉会員を対象として40周年に寄せたご執筆を依頼する。

13. 研究会等の後援・協賛について

- ・平成27年9月16日（水）に北とびあ（東京都北区）で開催予定の第28回報農会シンポジウムを協賛することを承認した。

14. 第41回大会関係

- ・大会の準備状況について説明があった。
- ・3つのシンポジウムを開催予定。

15. 第40回記念大会関係
- ・大会の準備状況について説明があった。
 - ・記念事業として、記念式典、記念講演および既刊学会誌等のアーカイブ化について検討した。関連して、既刊出版物の著作権移譲手続きについて検討した。
 - ・企業と個人からの寄付についてスケジュール等を検討した。
16. 入退会の報告（平成27年5月1日～7月15日）
- ・入退会が承認された。入会は正会員4名、学生会員1名、海外学生会員1名、団体会員1件、退会は終身会員1名、正会員4名。
17. その他
- ・雑草学会と大会の相互乗り入れについての覚書を締結した。
 - ・農薬工業会から、学術関係への助成について説明があった。

第192回常任編集委員会 議事要旨

日 時：平成27年5月9日（土）14時～16時30分
会 場：東京農工大学 農学部2号館4階会議室
出席者：13名 欠席者：3名

議 事：

- 1) 役割の確認
常任編集委員会の役割を編集規定により確認した。
- 2) 編集委員の推薦
査読部門長、幹事、常任編集委員、編集委員を確認し、常任評議員会に推薦することとした。
- 3) 論文賞推薦要領等の確認
論文賞の選考方法を確認し、依頼状、推薦要領、推薦書様式を、一部修正の上、承認した。
- 4) 学会出版物のアーカイブ化に関して
21世紀記念事業で出版した3冊の本のアーカイブにおける検索範囲について議論し、目次と索引を検索できるように要望することとした。
- 5) 投稿・審査状況
論文の受付から印刷までのフローの説明があった。投稿論文の審査状況・結果と掲載準備状況について報告があった。2014年および2015年の査読者の状況について説明があった。
- 6) 学会誌の発刊予定
JPS 40巻2号（5月20日発行予定）および農薬誌40巻2号（8月20日発行予定）の掲載内容について説明があった。
- 7) 今後の読み物企画、総説について
今後の読み物企画と総説について議論した。
- 8) EndNoteのアウトプットスタイル
ユサコ（株）に作成を依頼し、学会ホームページを通して

ファイルを提供することとした。

- 9) 論文へのアクセス状況
J-STAGEへのアクセス状況について説明があった。
- 10) 今後の検討課題
受賞論文の形式およびBioMed Central/Springerからのオープンアクセスジャーナル化の提案について議論した。冊子体の発送方法について検討を続けることとした。

第193回常任編集委員会 議事要旨

日 時：平成27年8月1日（土）10時～11時30分

会 場：日本植物防疫協会 地下会議室

出席者：14名 欠席者：1名

議 事：

- 1) 論文賞の選考
20名の編集委員から7論文の推薦があった。従来の手順に則って受賞候補論文1編と補欠候補論文1編を選考した。著者に受賞の意思を確認した後、学会賞選考委員会に推薦することを確認した。
- 2) Original articleからNoteへの変更の場合の手続きについて
論文種別の変更を促す場合は、一旦Rejectして、再投稿して貰うようにすることとした。
- 3) Journal of Pesticide Scienceのオープンアクセスジャーナル化について
BioMed Central/Springerからの提案について議論した。状況の推移を見守り、適当な時期に再検討することとした。
- 4) EndNoteのアウトプットスタイルについて
Journal of Pesticide Science用のファイルを作成し、学会ホームページからダウンロードして利用できるようにしたとの報告があった。
- 5) 投稿・審査状況
2014年の投稿については全て審査が終了した旨の報告があった。2015年の投稿・審査状況について資料に基づき説明があった。
- 6) 学会誌の発刊予定
JPS 40巻3号（8月20日発行予定）および農薬誌40巻2号（8月20日発行予定）の掲載内容について説明があった。
- 7) 今後の読み物企画、総説について
今後の読み物企画と総説について議論した。
- 8) 論文へのアクセス状況
J-STAGEへのアクセス状況について説明があった。

平成27年度学術小集会委員長との懇談会議事録

日 時：平成27年9月5日（土）15:30～17:00

会 場：日本植物防疫協会 地下会議室

出席者：学術小集会委員長7名（代理出席2名）、常任評議

員会メンバー 13名 (重複1名)

議事:

1. 各学術小集会の平成25年度活動結果報告および平成26年度活動状況報告
 - ・各委員長から昨年度の活動結果および本年度の活動状況(研究会の開催予定を含む)が報告され、常任評議員会との質疑応答があった。
2. その他, 連絡事項など
 - ・学会側より, 40周年記念事業として学会関連出版物のアーカイブ化を実施することについて, ホームページ委員会が担当して進めることが説明された。各学術小集会の講演要旨をアーカイブ化して学会HPで公開する方針について, 各学術小集會に協力を依頼した。
 - ・各学術小委員会における過去の要旨のアーカイブ化に向けた準備状況について, 報告があった。HPでの公開に関して, 各学術小委員会は概ね了承する方針である。
 - ・著作権に関しては学会全体として対応していくことを確認し, 学会と学術小集會で協力して進めていくこととした。
 - ・アーカイブ化は記録として実施し, 会員の利便性を考慮して統一したフォーマットでの作成を進めていく。公開の対象は当面は学会員限定とし, 一般への公開については別途検討していく。
 - ・学会より, 各学術小集會の研究会・シンポジウムの開催結果を農薬誌にシンポジアとして掲載するように依頼した。
 - ・各小集會シンポジウム開催日程の重複を避けるため事前に学会に連絡することとした。
 - ・各小集會の活動経費の申し合わせについて確認された。

4. 今後, 上記授賞候補に対して, 評議員による受賞可否投票の手続きにはいる。
5. その他

会 員 異 動

(平成27年5月1日~平成27年8月31日)

入 会

正会員

中島 晋也 沖田 洋行 岡村 充康 中屋 潔彦
玉田 佳文 金戸 恵子 北岡 洋平 佐伯 学
西山 隆之 住井 裕司 一丸 直哉

海外会員

Abdul Jabbar Al-Rajab

学生会員

谷澤 悟

海外学生会員

Aktaruzzaman, Md

団体会員

新潟県保健環境科学研究所

(受付順)

退 会

終身会員

熊澤善三郎

正会員

君島 隆夫 中野 辰彦 草薨 啓 信田 晃佑
三角 正俊 烏蘭 参丹 鈴木 雅博 内藤知佳子

学生会員

須藤 菜那

学会関連カレンダー

平成28年度日本農薬学会賞第2回選考委員会議事録

日 時:平成27年10月5日(月)13:00~16:55

場 所:植物防疫会館1階会議室

出席者:15名

議事

1. 選考委員の2/3以上が出席していることから選考委員会は成立していることを確認した。
2. 推薦のあった奨励賞,業績賞(研究),業績賞(技術)の各候補について,選考に関する内規に基づいて厳正に選考を行い,奨励賞2件,業績賞(研究)1件,業績賞(技術)3件の授賞候補を決定した。
3. 論文賞については,学会誌編集委員会より推薦のあった論文を授賞候補とすることを決定した。

太字は日本農薬学会が主催,共催,協賛する会議等

2015年

11月

30日(月)農薬レギュラトリーサイエンス研究会

主 催:日本農薬学会 農薬レギュラトリーサイエンス研究会

会 場:文部科学省研究交流センター・国際会議場

U R L: <http://pssj2.jp/committee/regula/regula23.html>

12月

15日(火)~20日(日) Pacificchem 2015 (The 2015 International Chemical Congress of Pacific Basin Societies)

主 催: The American Chemical Society (host society)

会 場: Sheraton Waikiki Hotel [2490 Kalakaua Avenue
Honolulu Hawaii 96815, USA]

U R L : <http://www.pacificchem.org>

U R L : <http://events.isaa-online.org/page/269/welcome-to-isaa-2016.html>

2016年

3月

17日(木)~19日(土) 日本農薬学会第41回大会

主 催：日本農薬学会

会 場：島根大学 [〒690-8504 島根県松江市西川津町1060]

U R L : <http://pssj2.jp/congresses/thisyear.html>

18日(金) 農薬バイオサイエンス研究会

(第41回大会との共催)

主 催：日本農薬学会 農薬バイオサイエンス研究会

会 場：島根大学 [〒690-8504 島根県松江市西川津町1060]

U R L : <http://pssj2.jp/committee/bioscience.html>

21日(月)~23日(水) 平成28年度日本植物病理学会大会

主 催：日本植物病理学会

会 場：岡山コンベンションセンター [〒700-0024 岡山県岡山市北区駅元町14番1号]

U R L : <http://forum.nacos.com/ppsj/2016/venue.html>

26日(土)~29日(火) 第60回日本応用動物昆虫学会

主 催：日本応用動物昆虫学会

会 場：大阪府立大学 [〒599-8531 大阪府堺市中区学園町1-1]

U R L : <http://odokon.org/event/>

29日(火)~30日(水) 日本雑草学会第55回大会

主 催：日本雑草学会

会 場：東京農業大学 [〒156-8502 東京都世田谷区桜丘1-1-1]

U R L : <http://wssj.jp/conference/>

4月

22日(金) 第33回農薬生物活性研究会シンポジウム

主 催：日本農薬学会 農薬生物活性研究会

会 場：東京農業大学(予定)

U R L : <http://pssj2.jp/committee/bioactivity.html>

6月

20日(月)~24日(金) 11th International Symposium on Adjuvants for Agrochemicals (ISAA 2016)

主 催：International Society for Agrochemical Adjuvants

会 場：Monterey Conference Center [One Portola Plaza Monterey, CA 93940]

10月

6日(木)~7日(金) 第36回農薬製剤・施用法研究会

主 催：日本農薬学会 農薬製剤・施用法研究会

会 場：神奈川県民ホール [〒231-0023 神奈川県横浜市中区山下町3-1]

U R L : <http://pssj2.jp/committee/formulation.html>

学会主催会議等の詳細

第12回農薬レギュラトリーサイエンス研究会

主 催：日本農薬学会 農薬レギュラトリーサイエンス研究会

日 時：平成27年11月30日(月)

会 場：文部科学省研究交流センター・国際会議場 [〒305-0032 茨城県つくば市竹園2-20-5]

TEL: 029-851-1331

http://www.mext.go.jp/a_menu/kokusai/kouryucenter/

U R L : <http://pssj2.jp/committee/regula/regula23.html>

テーマ：「農薬の安全と安心のための急性影響評価の導入」

主 旨：

農薬の健康リスク管理は、食品などを通じて一生にわたって毎日摂取するとの想定から慢性曝露を基本としたリスク評価により管理されてきました。近年、特定の食品を短期に多量に食する可能性を考慮して、農薬に急性に曝露されることによる影響を科学的に評価する考えが導入され、食品ではリスク評価として急性参照用量 (ARfD: acute reference dose) の設定及び急性参照用量に基づく食品中の農薬残留量の管理が既に実施されています。また、農薬の作業員や農薬散布地域の近隣住民の短期間曝露による影響のリスク評価を作業員曝露許容量 (AOEL: acceptable operator exposure level) の設定及び曝露量の推定により行うことが検討されています。

農薬レギュラトリーサイエンス研究会では2014年に作業員曝露及び2012年に急性参照用量をテーマに取り上げシンポジウムを開催しました。今年度はそれらの討論を踏まえ、慢性曝露と急性曝露による影響評価が総合的に我々にどのように関与するかを考えるシンポジウムとして開催します。

講 演：(講演内容、講演順は予定です。)

1) 残留農薬基準値超過時におけるADI・ARfDからみた安全性の考察

(食品中の農薬残留状況、基準値超過とADIやARfDによる食品衛生管理について)

斎藤 勲氏 (生活協同組合東海コープ事業連合技術顧問)

- 2) バイオロジカルモニタリングによる農薬の個人暴露評価
(殺虫剤の個人暴露量測定と健康リスク評価, ARfD
レベルの暴露におけるバイオロジカルモニタリングに
よる疫学研究に基づいた実際の健康リスクと今後の課
題について)

上島 通浩氏 (名古屋市立大学医学部)

- 3) 欧米における作業員暴露評価
(欧米における農薬散布時の農業従事者等への農薬の
暴露による安全性評価の概要を紹介)

田淵 美穂氏 (住友化学 生物環境科学研究所 環
境科学グループ)

- 4) 埼玉県における農薬指導に関する課題
(埼玉県における短期暴露評価問題を含めた農業者に
対する情報提供方法と問題点について紹介するととも
に農薬の使用に関する履歴記帳指導や散布者の暴露防
止対策の実情について)

鈴木 栄一氏 (JA全農さいたまの営農支援部 営

農支援課 技術参与)

- 5) 総合討論: 今回及び過去のシンポジウムの報告を整理
し, 急性暴露による影響のリスク評価及びリスク管理
の適切なあり方を討論する.

研究会参加費: 5,000円

情報交換会費: 5,000円 (オークラフロンティアホテルカメ
リア, 17:30-19:30の予定)

参加申込先: 参加申し込み, 問い合わせは以下に, なるべく
メールでご連絡ください.

農薬レギュラトリーサイエンス研究会 星野敏明

E-mail: pssj_reg_science@yahoo.co.jp

氏名, 所属, 情報交換会の参加の有無をご連絡ください.
ファックスでのご連絡は農薬学会宛てにお願いします.
(FAX: 03-5980-0282)

申し込みをいただきましたら, 確認のため参加申し込み
受理しました旨, 返信致します.

日本農薬学会第41回大会の御案内

日本農薬学会第41回大会を平成28年3月17日(木)から3月19日(土)までの3日間にわたってくにびきメッセ(島根県立産業交流会館)および島根大学(松江キャンパス)にて開催いたします。本学会員ならびにご関心をお持ちの皆様には、奮ってご参加くださいますようお願い申し上げます。一般講演の充実のため、学術小集会などの発表で評価されたご研究についても本大会での発表を歓迎いたします。植物防疫関係2学会(日本植物病理学会, 日本応用動物昆虫学会)および日本雑草学会と植物化学調節学会の正会員・学生会員の方も本学会員扱いとなりますので、お近くの関係学会員の方に参加・発表をお誘いいただければ幸いです。また、非会員の方のご参加も歓迎いたします。多数のご参加をお待ち申し上げております。

大会関係の記事は、下記のように本News Letterと学会誌に掲載いたします。また、詳細を大会ホームページで随時お知らせいたします。

- News Letter 2015年第4号(平成27年11月20日発行): 大会案内, 一般講演申込み要領, 事前割引登録要領
- 日本農薬学会誌41巻1号(平成28年2月20日発行): 大会日程, プログラム, 会場案内

I. 開催場所

総会, 学会賞授賞式, 受賞講演, 特別講演

『くにびきメッセ(島根県立産業交流会館)』(<http://www.kunibikimesse.jp/19.html>)

航空機をご利用の場合の最寄りの空港は出雲空港(JAL)または米子空港(ANA)です。

出雲空港から空港連絡バスで「松江駅」下車(所要約30分), 米子空港から空港連絡バスで「松江駅」下車(所要約45分)。

JR松江駅より徒歩7分, 駐車場あり。

懇親会, 受賞祝賀会

『ホテル一畑』(<http://www.ichibata.co.jp/hotel/access.html>)

JR松江駅①番バス乗り場から松江市営バス「北循環線外回り」またはJR松江駅③番バス乗り場から「松江しんじ湖温泉駅」行, 「福祉センター」行または「授産センター」行で「松江しんじ湖温泉駅」下車(所要約15分)。

「くにびきメッセ前」から松江市営バス「北循環線外回り」で「松江しんじ湖温泉駅」下車(途中「松江駅」で約20分の時間調整があります)(所要約45分)。

「くにびきメッセ前」から松江市営バス「北循環線内回り」で「松江しんじ湖温泉駅」下車(所要約35分)。

なお、特別講演終了後、くにびきメッセから懇親会・受賞祝賀会場のホテル一畑への移動にはシャトルバスを用意する予定です。

一般講演、シンポジウム、ランチョンセミナー、展示

『島根大学松江キャンパス 大学ホール、教養講義室棟2号館』(http://www.shimane-u.ac.jp/campus_maps/map_matsue.html)

JR松江駅①番バス乗り場から松江市営バス「北循環線内回り」で「島根大学前」下車（所要約15分）またはJR松江駅②番バス乗り場から松江市営バス「島根大学・川津」行で「島根大学前」下車（所要約20分）。

JR松江駅②番バス乗り場から一畑バス「美保関ターミナル」行または「マリンゲートしまね」行で「島根大学前」下車（所要約20分）。

駐車場：数台収容可能。

II. 会期および日程

平成28年3月17日（木）～3月19日（土）

| 月・日 | 午前 | 昼 | 午後 | 会場 |
|----------|----------------|--------------------------|---------------------|--|
| 3月17日（木） | 総会、授賞式 受賞講演 | | 受賞講演、特別講演 | くにびきメッセ（島根県立産業交流会館） |
| 3月18日（金） | 一般講演 | ランチョンセミナー | 懇親会・受賞祝賀会 シンポジウム | ホテル一畑 島根大学松江キャンパス・ 大学ホール、教養講義室棟2号館 |
| 3月19日（土） | 一般講演 | ランチョンセミナー 技術士試験対策セミナー | 一般講演 シンポジウム | 島根大学松江キャンパス・ 大学ホール、教養講義室棟2号館 |

常任評議員会、評議員会および編集委員会は、3月16日（水）にくにびきメッセ（島根県立産業交流会館）で開催します。詳細については別途ご案内します。

重要な締切日

| | |
|------------|---------------|
| 一般講演申込期限 | 平成28年1月15日（金） |
| 講演要旨原稿提出期限 | 平成28年1月21日（木） |
| 事前参加登録期限 | 平成28年2月1日（月） |

III. 特別講演およびシンポジウム

1. 特別講演

- 「Setting the Table for a Hotter, Flatter, More Crowded Earth」
Dr. Sonny Ramaswamy (Director of the National Institute of Food and Agriculture (NIFA), USA)
- 「薬物代謝および生体機能における硫酸化の役割」
水光正仁 教授（宮崎大学理事・副学長）

2. シンポジウム

- 「殺虫剤研究/QSAR研究の進歩」
オーガナイザー 田中啓司（近畿大学農学部、名古屋大学エコトピア科学研究所）
尾添嘉久（島根大学生物資源科学部）
- 「新アプローチによる生物制御剤ターゲットの探索」
（農薬バイオサイエンス研究会との共催）
オーガナイザー 乾 秀之（神戸大学遺伝子実験センター）
尾添嘉久（島根大学生物資源科学部）
- 「農薬の生態リスク評価の最近の動向―室内試験と野外での影響を繋ぐために―」
オーガナイザー 稲生圭哉（農業環境技術研究所）
井藤和人（島根大学生物資源科学部）
- 「農薬をよく知ってもらうための情報伝達」
（農薬工業会および日本農薬学会環境委員会との共催）

オーガナイザー 與語靖洋（農業環境技術研究所）
宮川 恒（京都大学大学院農学研究科）
巢山弘介（島根大学生物資源科学部）

IV. ランチョンセミナー

3月18日（金）、19日（土）の昼食時にランチョンセミナーを開催します。詳細は追ってご案内します。

V. 技術士試験対策セミナー

3月19日（土）の昼食時にランチョンセミナーとして開催します。詳細は追ってご案内します。

VI. 一般講演申込（一般講演申込期限は平成28年1月15日（金））

一般講演申込は、本学会会員（および冒頭で記載した4学会の会員）で平成27年度分会費納入者に限ります。受付はすべてWeb上で行い、平成27年12月1日（火）より開始します。一般講演を申し込まれる場合は、1演題ごとに発表代表者が次の1～3を行ってください。

- 平成27年1月15日（木）までに日本農薬学会ホームページ（<http://pssj2.jp/>）の「大会案内」より次回大会をクリック、次に「事前参加登録」をクリックして、東武トップツアーズ（株）の事前参加登録ページ（<https://conv.toptour.co.jp/shop/evt/pssj41>）に移り、「IX. 参加登録」の項に従って、事前参加登録を行ってください。事前参加登録をされないと、一般講演の申込はできません。一般講演を行わない参加者の方も、必ず事前登録を行ってください。
- 一般講演申込の受付は、平成27年12月1日（火）から、Web上で開始します。1の参加登録手続き後に、東武トップツアーズ（株）の事前参加登録ページにログインし、マイページ左側メニューの「一般講演申込」から手続きを行ってください。（一般講演申込期限：平成28年1月15日（金））
- 2の一般講演申込手続き後に、下記「VII. 講演要旨原稿の作成について」の項をご参照の上、講演要旨原稿を作成してください。講演要旨原稿は東武トップツアーズ（株）の事前参加登録ページにログインし、「一般講演申込」でアップロードすることによって提出してください。（要旨提出期限：平成28年1月21日（木））。詳しくは、「VII. 講演要旨原稿の作成について」の項をご覧ください。

※一般講演申込の入力内容について

一般講演申込においては、①演題名、②発表者氏名（連名の場合は全員、発表者本人の前に○をつける）、③所属・連絡先・電子メールアドレス、④分類（下の分類表I、およびIIから選択、記入例：第1希望B-1、第2希望E-5）、⑤代表者の会員番号をそれぞれご入力ください。期限を過ぎると、これらの内容は変更できません。

④の分類は、プログラム編成のために使用します。下記の分類表IとIIを組み合わせた記号で希望分野をご記入ください。

⑤の会員番号は、学会誌が送付された封筒の氏名欄右下に記された6桁の数字です。会員用「お知らせメール」にも記載されています。不明の場合は、日本農薬学会事務局（Tel: 03-5980-0281）にお問合せください。

| 分類表I | 分類表II |
|-----------------------|-----------------------|
| A. 分子設計 | 1. 殺虫剤 |
| B. 天然物化学 | 2. 殺菌剤 |
| C. 合成プロセス、グリーンケミストリー | 3. 除草剤 |
| D. 作用機構、抵抗性 | 4. 植物生長調節剤 |
| E. 生物活性、検定法 | 5. 防疫薬 |
| F. 代謝、分解、動態 | 6. 生物農薬 |
| G. 製剤、施用法 | 7. 環境化学物質 |
| H. 残留、分析法 | 8. その他（簡単な内容をご記入ください） |
| I. 環境科学、生態影響 | |
| J. 毒性 | |
| K. 遺伝子科学 | |
| L. レギュラトリーサイエンス | |
| M. その他（簡単な内容をご記入ください） | |

VII. 講演要旨原稿の作成について

講演要旨原稿は紙媒体をえません。学会ホームページの「大会案内」からダウンロードした『一般講演要旨原稿テンプレート』に上書きすることにより要旨原稿を作成し、WordファイルおよびそれをPDF化したファイルとして、VI. の項に示した東武トップツアーズ（株）の事前参加登録ページの「一般講演申込」において、ファイルをアップロードすることにより提出していただきます。原稿はそのまま大会事務局でA4判にプリントアウトし、オフセット印刷します。要旨提出期限は平成28年1月21日（木）です。

1. 要旨原稿はMicrosoft Word for WindowsもしくはMicrosoft Word for Macにて、『一般講演要旨原稿テンプレート』に上書きして作成ください。図表を挿入しても差し支えありません。なお、1演題につき用紙1枚に限ります。要旨原稿作成にあたっては、要旨記入例を参照ください。要旨記入例は、大会ホームページからダウンロードできます。
2. 書式（一般講演要旨原稿テンプレートおよび要旨記入例を参照）
 - a. A4判用紙を用い、上下25 mm、左右20 mmを余白とした枠内に記入してください。
 - b. 演題および氏名（所属）を最上部に書き、左側には25 mm（余白と合わせて45 mm）の空白を設けてください。発表者が連名の場合には、講演者の前に○印を付けてください。
 - c. 演題・氏名（所属）・要旨本文および脚注を、それぞれ改行してこの順に書いてください。氏名（所属）と要旨本文の間には、空白行を1行設けてください。
 - d. 全行数（演題、氏名、脚注などを含む）は36行程度で書いてください。
 - e. 要旨本文は、目的・方法・結果および考察に分けて、具体的に書いてください。特に、結果および考察については、その内容を把握できるようにしてください。
 - f. フォントは12ポイントで、演題は太字にしたゴシック体（「MSPゴシック」を推奨）を、それ以外は明朝体（「MSP明朝」を推奨）を使用してください。数字やアルファベットは原則として半角文字を使ってください。
 - g. 枠内の最下部から30 mmまでの領域内に、脚注として英文による演題と氏名（所属）を書き込んでください。
 - h. 英文で記述する場合は、フォントにできる限り「Times New Roman」を用い、上記の様式に準じてください。
3. 要旨原稿ファイルは、WordファイルおよびそれをPDF化したファイルの両方で提出していただきます。PDF化に際しては、図表に十分な解像度があるか、文字化けはないか発表者自身で確認してください。
4. ファイル名はそれぞれ（氏名の半角英小文字.doc）、（氏名の半角英小文字.pdf）としてください（例：“島根太郎”の場合は、shimanetarou.docとshimanetarou.pdfとなります）。
5. 大会講演要旨集に掲載された各要旨の著作権（複製権、公衆送信権を含む）は、日本農薬学会に帰属しますので、必ず「共著者全員の同意のもと承認します」の承認ボタンにチェックを入れてください。

VIII. 一般講演について

講演はすべて、Microsoft PowerPointで作成されたファイルを液晶プロジェクターで投影して行います。講演時にトラブルが起きないように、下記の注意点を参考にしてファイルの作成と受付を行ってください。使用するノートパソコン（OS: Windows 7）には、最新のMicrosoft PowerPoint Viewer（無料ソフト）がインストールされています。演台上のPCは、補助者がつきますが、原則として演者の方ご自身で操作していただきます。

ファイル作成の注意点

- (1) 発表1題につき1つのファイルを作成し、ファイル名は講演番号_講演者名（半角英数のみ使用）.ppt（あるいは.pptx）としてください。
例：A101_Shimane.ppt
- (2) 講演時間は1題15分（講演12分、討論3分）です。12分の発表時間に適したスライドの枚数にしてください。また、遠距離からも十分見えるよう、文字のサイズやフォントの選択に留意してください。
- (3) スライド中に使用するフォントは、文字化けを防ぐために機種依存文字（①、（株）など）の使用は、極力避けてください。
- (4) 動画等を含む大容量のファイルはトラブルの原因になりますので、極力避けてください。やむを得ない場合は、ファイルを可能な限り圧縮してください。
- (5) 作成されたファイルはWindows版のPowerPointでスムーズにスライドショーができることを確認してください。特に

Macintoshをご使用の方は、ファイルをお持ちいただく前に、Windows版のPowerPointで動作確認を各自お願いいたします。特にフォントずれや文字化け、オブジェクトの非認識等にご注意ください。

データ受付の流れ

※発表ファイルの受付は、原則として3月17日（木）（一般講演前日）に済ませてください。発表者が受付できない場合は、共同発表者の方が代わりに行ってください。発表直前の受付はご遠慮ください。

- (1) 発表用ファイルはUSBメモリに保存してお持ちください。
- (2) 総会会場の受付付近に設置した「発表ファイル受付」にて、ウイルスチェックを行なった後、発表ファイルをコピーしていただき、スライド動作に問題がないかどうかを確認してください。
- (3) 万が一のトラブルに備え、発表用ファイルの入ったUSBメモリは、発表時にご持参ください。
- (4) 大会終了後は、講演会場用PCにコピーされた発表ファイルは大会実行委員立会いの下、確実に削除いたします。

IX. 参加登録（事前参加登録期限は平成28年2月1日（月））

参加登録は、平成27年12月1日（火）からWeb上で開始します。東武トップツアーズ（株）の事前参加登録ページ（<https://conv.toptour.co.jp/shop/evt/pssj41>）にアクセスしてください。「初めての方はこちらから」のボタンをクリックし、ID（メールアドレス）、パスワードを登録しログインします。参加者の連絡先入力後、大会参加、懇親会参加、宿泊予約等を行ってください。登録手続き完了後、登録内容をお知らせする電子メール（「ID登録完了のお知らせ」）がお手元に自動配信されます。このメールにより、参加登録手続きの完了と申込内容が確認できます。申込内容を確認後、参加登録ページの「支払」から支払い手続きを行ってください。参加費の支払い方法の詳細については支払い方法登録確認のメールにてお知らせします。

支払いはクレジットカードのみとなっております。公費・校費による支払いはお受けできません。

1. 事前登録割引：平成28年2月1日（月）までとさせていただきます。これ以降は、すべて当日受付とさせていただきますので、大会会場にてお申込みください。スムーズな当日運営のため、事前登録割引にご協力いただきますよう、よろしくお願いいたします。

| | | 参加登録費 | 備考 |
|--------------------------|---------|--------|-------------------|
| 大会参加費 (講演要旨集1部の代金を含む) | 正会員 | 5,000円 | 2月2日（火）以降は7,000円 |
| | 学生会員 | 2,000円 | 2月2日（火）以降は3,000円 |
| | 非会員 | 8,000円 | 2月2日（火）以降は10,000円 |
| | 講演要旨集のみ | 3,000円 | 送料込み（大会終了後発送します） |
| 懇親会費 | 正会員・非会員 | 8,000円 | 2月2日（火）以降は10,000円 |
| | 学生会員 | 3,000円 | 2月2日（火）以降は3,000円 |

※植物防疫関係2学会（日本植物病理学会・日本応用動物昆虫学会）および日本雑草学会と植物化学調節学会の正会員・学生会員の方も本学会会員と同じ参加費です。

2. 大会参加登録費用に相当する領収書（参加登録費・懇親会費）は、大会当日に参加証と一緒にお渡しします。
3. 事前参加登録し、参加登録費をお支払いいただいた方は、事前参加登録ページの大会参加証引換券発行ページから大会参加証引換券を印刷することができます。その引換券を印刷して、宿泊等の必要情報を記入いただき、学会当日、大会受付へ提出ください。参加証を引き換えにお渡しします。

X. 宿泊および昼食（弁当）について

IX. の項に示した東武トップツアーズ（株）の事前参加登録ページから、JR.松江駅近隣のホテルの宿泊と昼食（弁当）を予約できるようにいたしましたのでご利用ください。

XI. 託児室について

お子様をお持ちの会員の方々に安心して年次大会に参加していただくために、乳幼児を含む未就学児童から小学生（3ヶ月～12歳）までのお子様を大会期間中に預かりする託児室（無料）を設置いたします。ご利用には事前の申込と手続きが必要です。詳細は学会ホームページでご案内します。

お問合せ

島根大学生物資源科学部生命工学科
日本農薬学会第41回大会組織委員会
住所：〒690-8504 島根県松江市西川津町1060
TEL: 0852-32-6575
E-mail: ikeda@life.shimane-u.ac.jp
担当：池田 泉

日本農薬学会第41回大会における広告、展示等についてのお願い

日本農薬学会第41回大会が下記の日程・会場で開催されます。つきましては、講演要旨集への広告の掲載、展示会への出展等でご支援を賜りたいと考えております。各応募の詳細および申込先等につきましては学会ホームページ (<http://pssj2.jp/congresses/thisyear.html>) に掲載しています。本大会の成功のために、何卒ご協力を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

記

日程：平成28年3月17日（木）～3月19日（土）

会場：くにびきメッセ（島根県立産業交流会館）、島根大学松江キャンパス（大学ホール、教養講義室棟）

日本農薬学会第41回大会組織委員会委員長
島根大学生物資源科学部
尾添嘉久

技術士試験対策セミナーの御案内

日本農薬学会では関連学会と連携して、会員の皆様の技術士（農業部門・植物保護）資格の取得の推進を図っております。本年度、日本農薬学会大会（島根大学）において、「技術士試験対策セミナー」を開催する予定です。2016年3月19日（土）の昼食時に島根大学松江キャンパスにて開催します。内容は技術士制度、技術士試験の説明および受験体験談を予定しておりますが、詳細は追ってご案内致します。

また、日本農薬学会会員の方は、関連学会（日本植物病理学会、日本応用動物昆虫学会、日本雑草学会）の大会で開催されるセミナーに無料で参加することができます。日本農薬学会大会に参加予定の無い方、日程等ご都合が合わない方はご利用下さい。関連学会でのセミナーにご参加の場合は、日本農薬学会誌封筒（会員番号とご氏名が明示されているもの）をご持参の上、会場でご呈示下さい。なお、関連学会の当該セミナー参加のみ無料で、大会に参加をご希望の場合は別途大会参加費等が必要になりますのでご注意ください。（関連学会の日程は関連学会カレンダーをご参照下さい）

農薬科学研究奨励金交付申請について

日本農薬学会では農薬の必要性、農薬のリスクと安全性を理解していただくための活動の一環として、農薬環境研究補助金交付制度を平成18年度から発足させ、平成23年度までに計10件の研究に対して補助金（30～45万円）を交付しました。その成果は日本農薬学会大会において発表され、また一部は研究論文として日本農薬学会誌に掲載されました。平成24年度からは、農薬の環境科学研究のみでなく、作物保護に必須の資材である農薬の研究を支えることで社会に貢献するという日本農薬学会の原点に立ち返り、基盤となる化学と生物の領域の研究強化・支援を図るための一環として、補助金の対象を広く農薬科学研究全般に拡げることとし、年間2件の研究に対して補助金（1件50万円）を交付しました。

平成27年度からは名称を農薬科学研究奨励金と改め、他の競争的資金の獲得が難しい研究者の方あるいは研究課題に対して支援することを優先して交付しています。平成28年度につきましても、下記の応募要領に従い募集します（交付は2件）。

(対象となる農業科学の研究テーマ)

- | | |
|----------------|------------------|
| 1. 作用機構 | 8. 環境科学 |
| 2. 抵抗性 | 9. 生態影響 |
| 3. 生物活性・検定法 | 10. レギュラトリーサイエンス |
| 4. 天然物化学 | 11. 製剤・施用法 |
| 5. 分子設計・合成プロセス | 12. 生物農薬 |
| 6. 代謝・分解・動態 | 13. 遺伝子科学 |
| 7. 残留性・残留分析 | 14. 毒性 |

すべて、内容は基礎、応用を問いません。

(応募資格)

筆頭研究者は農業学会正会員（学生会員を含む）であり、かつ申請年度後少なくとも3年間は正会員であること。なお、応募にあたっては、必ず所属長の承認を得てから応募して下さい。

(ここでいう所属長とは、指導教員、室長、部長、所長あるいは研究を行う機関の責任者等を意味します。)

(研究奨励金の規模)

原則として、1件50万円、年間2件以内の試験研究に対し、奨励金を交付いたします。研究遂行の目的であれば、特に用途の限定はありません。

(研究期間)

研究奨励金が対象とする研究期間は奨励金を交付する4月当初から1年間です。

(応募方法)

所定の農業科学研究奨励金交付申請書用紙に必要事項を記入し、平成27年11月30日（当日消印有効）までに日本農業学会事務局宛に郵送して下さい。

奨励金申請書・研究成果報告書の書式は日本農業学会ホームページからダウンロード (<http://pssj2.jp/inside/grant16.html>) するか、日本農業学会事務局にご請求ください。

連絡先：〒114-0015 東京都北区中里2丁目28番10号

日本植物防疫協会内 日本農業学会 事務局

電話：03-5980-0281 FAX: 03-5980-0282

E-mail: nouyaku@mocha.ocn.ne.jp

初霜、初雪の便りが紅葉の終焉を予感させ、あらためて四季を想う。しかし寒さに怯える留学生によると、東南アジアの季節は雨季と乾季の2つで、多くても気温が異なる時期を加えた3つのようである。しかも平均気温は一年中高い。だから稲作でも年2回は収穫する。ベトナム南部では2年で7回できるところを年3回でゆったりやっているそうだ。これでは彼らと日本人で季節感や食べ物への感覚が違ってもおかしくない。環太平洋戦略的経済連携協定も、農業分野ではこのような人々とも競争したり商売したりする訳である。

さて、今号には国宝松江城の地での第41回大会の案内が掲載されている。多くの会員の参加を期待して託児室も用意しているので、大会への参加を是非検討いただきたい。

発行所：日本農業学会

〒114-0015 東京都北区中里2-28-10

一般社団法人日本植物防疫協会内

TEL: 03(5980)0281 FAX: 03(5980)0282

E-mail: nouyaku@mocha.ocn.ne.jp